友の新聞
第639号
2010年6月
—全国友の会—
友の新聞発行所

全国友の会創立80周年記念大会

2010年5月18日(火)・19日(水)・20日(木)

80年の感謝と希望　羽仁もと子著作集を生きる　家庭から社会へ

プログラム

第1日 5月18日(火) 自由学園記念講堂 出席979人
開会式 代表入場
点呼
大会成立
創立者の墓参報告
青森 千葉 武蔵野 静岡
徳島 ロサンゼルス 信越部
礼 拝 石川 邦子
聖 書 マルコによる福音書12章41～44節
ローマの信徒への手紙1章10～14節
讃美歌 1番 234番A
新リーダーの抱負 旭川 生保内 福井 草加
東京第二 四日市 西宮
防府 高知 大分 ロンドン
会員数の報告 中央部 小樽
自由学園長の挨拶 矢野 恭弘先生
記念写真撮影
自由学園教育報告 女子部 男子部
著作集を生きる 協力の中で育ち合う
沖縄 飯田 姫路 神戸
お祝いの音楽
自由学園
指揮 梅田 俊明先生
ブランデンブルグ協奏曲第3番 バッハ作曲
弦楽オーケストラ
女子部・男子部・最高学部
友の国 羽仁もと子 詩
三善 晃 作曲
山本 直純 編曲
合唱 女子部高等科2・3年

第2日 5月19日(水) 日本青年館大ホール 出席1、277人
「親しき友よ」に応えて 羽仁もと子著作集を生きましょう
礼 拝 小豆沢千加代
聖 書 ヨハネによる福音書20章24～29節
ヘブライ人への手紙11章1節
讃美歌 7番 270番
来賓のご紹介
祝 辞 自由学園長 矢野 恭弘先生
婦人之友社 千葉 公子さん
在会70年会員の紹介
全国友の会創立80周年を記念して 石川 邦子
著作集を拠として若い家庭と子ども自身に
働きかける 新たな一歩を
著作集の言葉と友の会活動を表すパネル 中央部
2009年全国友の会家計報告
全国に拡がった働きかけ 10の部と海外から
婦人之友とともに 中央部 飯田 松江 婦人之友社
友の国 合唱

第3日 5月20日(木) 自由学園明日館講堂 出席265人
愛と創意をもって働きかける 家庭から社会へ
礼 拝 高橋 祥子
聖 書 ヨハネの手紙I 4章7～12節
讃美歌 22番 448番
話し合い 友の会の生命を強めるため、今なすべきこと
80周年記念の年に創意をもって働きかける
経済の報告 中央部会計 われらの公共費 協力経済
財団法人全国友の会振興財団の報告
閉会式 全国友の会中央委員承認
野の花の姿 合唱

第1日 礼拝
復活のイエスを信じて

中央委員 石川 邦子

讃美歌 1番 234番A
聖 書 マルコによる福音書12章41～44節
ローマの信徒への手紙1章10～14節

羽仁もと子著作集『信仰篇』と『みどりごの心』をこの全国大会までみなと読み備えたいと願いました。

神を信ずるとはどういうことか的確に書かれている所が「造られたるもの」の中にあります。「聖書によって、神の現わしておいでになる、その御性質を知り、この人の世に示されている神の経綸を知り、我々に何を望み給うかを絶えず問題にして、祈りつつみ心を成そうとするのが、神を信ずるといい得ることです。」とあります。これは個人に言われているだけでなく、団体として神を問題にしてきた友の会も、80年に渡りみ心にかなうような働きとはどのようなことであったらよいのか問い続けてきた年月であったと思います。80年の歴史を人から人へと繋いできたことをさらに未来に向けて友の会の存在が許されるには、羽仁先生のご信仰に基づいた著作集を生きる者にならせていただきたいと願うばかりです。特にキリストを対象とした生き方を私たちにすすめています。

フィリピの信徒への手紙の「キリストは神の身分でありながら、人間の姿で現れ、へりくだって死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」の聖句を引用して、「イエスの持っている愛と同情と知恵と力をことごとくこの世の最も気の毒な人々と世の罪のために犠牲として神にささげられたことです。」とただ弱者のためにではなく神にささげるためでありました。

そして復活のイエスを信じたことから私たちにどんな力が与えられるかが書かれています。復活とは今までの自分を脱ぎ捨て、自分の持っている罪を悔い改めることによって新しくなることができるのです。と羽仁先生は教えてくださいます。信仰に立った行いを神様に向けて捧げていくことと、復活のイエスを信じることから私たちに新しい道が開かれるのです。

「みどりごの心」の中に「新しい時代には、新しい人と新しい社会とそうして新しい家族をつくり出す使命があります。」とあり、この文章の奥には、聖書の中の復活が意識されていると私は推察します。

『信仰篇』をどのような思いで書かれたか「貧しい女のレプタ」を読みますとよく解かります。

貧しい女のレプタより

「信仰篇はどうか精しく読んでいただきたいとそれのみを希っています。併しそれにしても私の小さい数ならぬあの証しは人間(ひと)の心や理想からつくり出している神でなく、天地の造り主なる父、子、聖霊の神を言い現わして、自分自分という個々の存在に、またこの人生という大なる生命の流れに、日夜に迫りつつ働きたまう驚くべき活ける存在を少しでも明らかにして皆様の心を刺激することが出来るでしょうか。皆様の活発な良心が聖霊によってほんとうに動き出し、あの信仰篇が貧しい女のレプタになって、贖いのみ手にうけ入れられているように、この頃の私の希ひは唯それにかかっています。」

ここで羽仁先生がはっきりと父、子、聖霊の神を言い現わし明らかにした『信仰篇』であったことに注目したいのです。

マルコによる福音書に賽銭箱に人々がお金を入れる場面があります。有り余る中から入れる人々の中、貧しい女がレプトン銅貨二枚、彼女にとっては生活費の全部を入れたとあります。『信仰篇』は羽仁先生の全部を差し出した労作ではなかったでしょうか。それを読む私たちの良心が聖霊によって動き出すことを希っておられるのです。キリストを活ける神として捉え、生活者としてのイエスキリストの愛と実践を重視している羽仁先生。イエスのように使命を持って生き、与え、捧げることを私共の生活の中に生かさなければと思わされます。「食物なしに内部なる自分の働きばかりで生きようとするならば消耗するばかりでしょう。私たちの個々に注がれている聖霊の前に祈って下さいませ。」と語りかけています。

この先生の神に対する全身全霊をささげる熱い思いに、羽仁先生とご一緒に過ごされた方や当時の読者はどんなに良心と聖霊がよい方向に動かされたことでしょう。

歴史を振り返ります時、書き残されたものの中からも私に迫ってくるものがあります。ご事業の一つ北京生活学校のお働きであります。(山室光子さんの文章から)

「北京生活学校は1938年5月に開校、1945年太平洋戦争の敗戦により中国政府によって接収され閉校となりました。わずか7年間でありましたが、指導者の献身的な活動により、その教育の成果は長く生き続けています。この学校は羽仁先生の発案から始まり、設立運営には、婦人之友社、全国友の会が資金援助、現地での物資調達、など協力しました。生活学校は20人の少女たちで始められ、初めの頃は、自ら働こうとしない生徒たちに指導者の根気よい愛深い対応で入学2か月で皆別人のようにキビキビと明るい顔になった。」と山室光子さんが書いています。しかし日本の敗戦により閉校となります。その時のようすは読むたびに涙がこぼれます。生活学校を接収に来た人が「日本は中国を軍国主義の下に圧迫した。この学校の先生方には一週間ばかりの中に出ていただきます。日本人のやったことは不正であった。」と再び言われた時山室さんは「私達は国民としての連帯責任を負わなくてはならないことは知っています。しかし生活学校のしてきたことは決して侵略主義であったと思いません。」と、そして「この学校の創立の時から自由学園という名のために、殆んど開校も危ぶまれた位時の軍や大使館の反対を受けました。しかし羽仁先生は、自由なくして教育はあり得ない。それが理解されない位ならここまで来て学校をするわけがない。やめて帰った方がよいといって戦われた。」と言われたのでした。

この山室先生の迫力と信念はどこからきたのだろうか、と私は思いました。羽仁先生が捧げた2枚のレプタは、キリストに従う使命を持った歩みを強めさせて下さったのだと思わずにいられません。

北京に開校準備のために出発しようとする朝、羽仁先生の礼拝は、ローマの信徒への手紙1章14節であったことを知ったからです。この聖書の場面は、復活のキリストに励まされた使徒パウロがいよいよローマへ宣教に向かおうとする章です。11節「あなたがたにぜひ会いたいのは、霊の賜物をいくらかでも分け与えて力になりたいからです。」14節「わたしは、ギリシャ人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも果たすべき責任があります。」という使徒パウロの言葉を羽仁先生は用いられ、山室先生はそのことをふまえ次のようにお書きになっています。

「私たちは愛の負債(おいめ)を償うために出かけてきたのではなかったのか。まだ見ぬ中国の人々をどうかいつも清き思いに立ち、兄弟の愛をもって愛させて下さいませと祈り求めていたことを思い出す。」と。愛の負債を償うために、この使徒パウロの気持にも通じる思いを実行なさった先達の方々に、今私共はただ励まされるといった言葉だけでない愛の伴う行いを社会に発信していかなくてはなりません。

「あなたがたは地上に富を積ん

(2頁7段へつづく)

全国友の会創立80周年記念大会

今年は1930年第1回の全国友の会大会が開かれてから80周年になります。この80年の間には、国民としては敗戦という社会の変動などがありました。友の会としては、創立者お二人を失う悲しみがありました。私たちは遺された著作集に励まされ、婦人之友、自由学園のお援けを感謝しつつ歩んできました。

み心はどこにあるのかをたえず尋ねながら、家庭生活の真の合理化を実践し、社会に働きかけ続け今日に至りました。創立者亡きあとの54年は、著作集を道しるべとしてここまで歩み得たという感を深くいたします。家庭の主婦が手をつなぎ新しい社会を今も理想に掲げて活動できますことを神に感謝します。

この80年を機に、創立者のご信仰に基づいた思想が次の若い時代の生命に引き継がれていかれますよう、私どもは力を尽くしたい覚悟です。

1日目は自由学園の協力により1,000人の昼食をいただき教育報告のほか、お祝いの音楽が演奏されました。

情勢報告から、著作集を生きる実例は4人。真摯な生活姿勢に聞く者は勇気をいただきました。

2日目は80周年を記念して自由学園長矢野恭弘先生、婦人之友社千葉公子さんより祝辞をいただく。その時婦人之友社からお祝いとして平福百穂氏の「著作集21巻表紙画額装」と映画「友より友へ」のDVD版が全友の会へ贈られました。来賓のご出席は14人。

一年がかりで婦人之友社と中央部が共同で制作したパネル「友の夢あつめて」の報告のあと、3年をかけて各地友の会が若い家庭と小学生自身の生活をよくすることを願って社会へ働きかけてきた内容を部ごとに報告。会員一人が一人の読者拡大を約束しました。

3日目はこの社会への働きをさらに創意工夫をもって友の会らしい愛のあふれたものにするにはを熱心に討議しました。

石川 邦子